

令和5年度 第2回行政改革審議会 議事録要旨

日 時	令和6年1月23日（火）午後1時30分～3時	
場 所	市役所 災害対策本部室	
出席者	委 員	（会長）高松淳也、浦田真由、熊谷忠信、小山敦、斉藤直基、杉戸厚吉、寺田覚、山本美由湖
	事務局	市長、副市長、企画部長、行革・政策監、経営情報課長、経営情報課長補佐、経営情報課（行革・経営係長、杉山専門主査、橋本、岩井）
次 第	1 会長挨拶 2 議題 （1）事務事業総点検について （2）外部評価報告書について	

- 1 会長あいさつ
- 2 議題
 - （1）事務事業総点検について

（事務局説明）

・ 委員

事務事業総点検の内容がしっかりまとめられていて、大変わかりやすく結構だと思えます。一つ気になるのがスライド資料11ページの事務事業総点検のスケジュールです。しっかりまとめられていると思えますが、基本的には2月に始まって1月に終わるということで、1年を通した計画になっています。今までこれですっとやられてきていていいかとは思いますが、事業によっては、年度の途中が期限になっているものは途中でもう決めないといけないものとか、事業によって期限が違うと思えます。そういう意味で見ると、各事業についての期限の方が重要であって、その期限に対してこの点検のスケジュールがどうあるべきかと考える方が、事業のスピードに対して点検がマッチするようにも思えます。いかがでしょうか。

・ 事務局

スピード感をもって行うというお話かと思いますが、点検につきましてはまず各部署で点検を始めて、早い段階ですと、5月から6月にかけて各課の点検が終わる状況です。その後、必要なものについては企画部長、副市長、市長ということで順に上がってきます。スピード感をもって行う中で、早いものについては、

その段階で動きを見せるものもあるかもしれませんが。今回、第9次総合計画に合わせてチェックを進めていき、実施計画にも途中反映をしてみたいです。1年遅れにはなりますが、予算にも反映ということで早く判断を下せるものについては、その時の判断で早く進めていけたらと思っております。最後にまとめることとなりますが、その中でもスピーディーさを目指しながら進めていけたらと思っております。

- ・ 委員

私はこの会議への参加は初めてですので初歩的なことをお尋ねするのですが、「事務事業の総点検」と「事務事業」という、私どもは普段は使わない言葉なのですが、通常の「事業」と「事務事業」というのは何か言い分けているのでしょうか。

- ・ 事務局

事務事業は予算と連動しております。例えば、私どもの部署ですと、「行政改革事業」という事業と「行政評価事業」といった事業があります。事務事業を単位にして、各課が複数持っております。その事業の中にもさらに細かくいろんな業務がございますので、そういった業務単位でも見ることもあります。今回は、大きな括りとしての事務事業で整理をしております。

- ・ 委員

もう一点お願いします。先ほど委員のお話と通じるかもしれませんが、昨年3月の議会で市長が答弁をされて、8月の行革審でも進捗が遅れているという意見があって、今回のこのスケジュールが示されています。遅れた理由はいろいろあるかと思いますが、着手ができるという見通しが立ったということで、このスケジュールになったのでしょうか。

- ・ 事務局

3月の議会において市長答弁がありまして、前回の平成28年の内容も踏まえて、スキームといいますか、どういったやり方であれば職員がやりやすいかといったことを検討しまして、このタイミングで実施することを決めた次第でございます。

- ・委員

先ほどの委員の皆様からのご質問と重複しますが、スライド資料11ページのスケジュールについて、先ほどの回答の中で、次の年の予算に反映するという話が出てきたかと思えます。この次年度予算というのは、例えばこれがR6年度の、R5年からR6年に掛けてということだとすると、R7年度の予算に反映させるというイメージなのではないでしょうか。このスケジュール自体については特に問題はないのかなとは思いますが、現実的に考えると、こういう形も十分理解しての意見ですが、例えば、先ほどこの公表について、スピーディーに進めるというお話がありました。公表が1月ですと、次の年の予算編成をこの公表を待ってから考えているというのは大分遅いというか、間に合わないのではないのでしょうか。おそらくどこかで並行しながらやっていくということもあろうかとは思いますが、先ほど次年度の予算にも反映するといったことを言われていましたので、その次の年ということで2年後の予算なのか、次の年の予算なのかということをお聞きしたいのが1点目です。

2点目ですが、職員のワークライフバランスの推進、効率化による業務量の削減ということで、時間外労働の推移が伸びているということです。まさにこれは人手不足、人員ともに不足しているような状況というのが出てきたのだと理解をしているところです。今後考えていただくこととしては、例えば季節的な時間外労働の時間なども変動があると思うのですが、そうした部分の効率化だとか、業務の平準化といったこともポイントなのかなと思えます。おそらくその辺りのことについても入っているとは思いますが、もし抜けているところがあれば、部署にはよるとは思いますが、平準化といった話もポイントになるのかなと思えます。

- ・事務局

まず一つ目のご質問の反映する年度等でございますが、まず令和6年に実施します。令和7年度の予算に反映していくということでございます。2次評価、3次評価、4次評価とスケジュールを進めていく中で、企画や財政とも一緒に連携して進めていきますので、情報を共有しながら予算の査定等に反映して進めていくということでございます。二つ目のワークライフバランスについて、平準化というお話でございましたが、平準化につきましてはまさに課題でございます。その中で、1次評価の中で係内協議を最初に持ってきた意味合いがそこにあります。現在でも職場内ミーティングを推し進めている状況ではございますが、係内で一度、事務事業の棚卸をしていただいて、その中で課題や見直し等をしていただき、係内で係員の業務を見た上で、その中で平準化もしつつ、見直しができる

ものがあれば見直しをしていただくようなイメージをしております。

- ・委員

12ページで貢献度の中に評価点方式というものがありますが、この評価点方式がどういうものかということをお聞きしたいと思います。というのは、横に上位施策への貢献度という項目がありますので、それぞれの事業ごとの貢献度を判定するのか、あるいは上位政策の中でいろんな事業の組み合わせがあると思いますが、その事業の組み合わせ、その政策に関連する事業の相互評価、いわゆる相対比較みたいなものをやるのかどうか。要は、一つ一つの事業だけ評価すると、どうしても事業の必要性というのは、必要があるから事業をやっているということですので、一つの事業の単独の評価になると、なかなかマイナス評価というのができないと思います。ただ、関連する事業で全体をトータルして、その上位施策にどう貢献するかといった貢献度の中で、より貢献度の高い事業と、少し低い事業という事業間の相対的な比較というのが重要になってくるのではないかと思います。その評価点方式というのがどういうものかということを少しお聞きしたいと思います。

それから、必要性のところで、市民ニーズが低下したという内容がありますが、明らかにニーズが低下して事業の必要性がなくなった事業は、当然マイナスの評価になると思います。もう一つは、その事業自体の必要性はあるのだけでも、ニーズが変化して、ニーズの変化に事業の中身がマッチしないというケースがあると思います。ですので、ニーズの低下と同時に、ニーズの変化に対してマッチングの必要、マッチしているのかどうかという視点も評価の中でやる必要があるのかなと思います。

それから、3点目は、これは事務事業評価とは関係ないかもしれませんが、先ほど残業時間の増加というところで、ワークライフバランス、これは市役所だけではなくてどこの組織でもそうなのですが、特に市役所の場合、いろんなニーズが常に変化していて、仕事がどんどん増えてきているという状況の中で、このワークライフバランスをどう取るかというのは、非常に大きな課題だと思います。ですが、あまりに効率性を重視してしまうと、新しい事業にチャレンジすることに対して非常に消極的になるケースがあります。これは事務事業評価ということではありませんが、そういう新しい事業に対して、新しいこと、新しい課題に対してチャレンジするという部分を、総点検とはまた別の視点で少し加味するようなことも考えてほしいと思います。そのときに、役所の中のリソースだけでは対応できなければ、外部リソースを有効に活用するという視点も必要になってくるの

かなと思います。

質問は、評価点方式についての質問ということでよろしく申し上げます。

・事務局

評価点方式につきましては、別の資料ご説明の方させていただきます。今映し出しているものが、今回点検で使うシートでございます。こちらは、政策的シートと事務的・経常的シートということで、投影しているのは政策的事業で使うシートです。まず基本事項を書きいただき、その政策的事業にぶら下がる事業を、細分化、見える化していただき想定をしております。この一つの事業について、その業務の業務内容等を書きいただいて、最初の点検項目が事業の必要性です。そこで法定事務かどうかということや、総合計画や個別計画での位置付けで点検し、国・県・民間で実施しているかどうかや、近隣自治体との比較といったところを見ていきます。必要性の検討の中で、法定でもなく、総合計画にも個別計画にも位置付けがないものにつきましては、必要性を一度点検していただくことを想定しております。そこが終わりますと、上位施策への貢献度ということで、総合計画や個別計画、市民ニーズ、対象者ニーズ、市民満足度を評価点方式の項目として100点満点としております。それぞれの項目に点数を付けていただき、21点を基準点として、未満のものは上位計画の貢献度が低いのではないかとということで、縮小の検討をしていただくこととなります。21点以上の場合ですと、必要性が概ね有りということで、業務の効率性や公平性のチェック、民間活用、ICT、国・県の補助の活用、業務量の削減、業務の効率化の視点でチェックをしていただき、いずれかに該当したものについてはその項目で見直しを検討していただく。何も該当しないものについては、上記の項目以外に業務の課題や改善の取組といったものがあれば書きいただく。あとは最後、今後の方向性ということで記載をしていただくという形で予定をしております。先ほどご質問のありました、点数化することによって上位施策への貢献度を見るということで評価点方式を採用して進めている状況です。

あと二つ目と三つ目のお話につきましては、ご指摘いただきました通り、当然長い年月の中で市民ニーズの中身が変化している状況ですので、その辺りも点検を進めたいと思っております。あと、ワークライフバランスの中での新しいチャレンジということですが、まさにこちらは、来年度から始まる第9次総合計画の中にたくさんのチャレンジ項目が含まれておりますので、そういった中でチャレンジの方を進めていきたいと思っております。こちらの総点検におきましても、積極的に取り組んで見直し等に積極的にチャレンジしていただくことができれば

とも思っております。

- ・委員

こういう形で各個別事業ごとに点数を付けて評価することはいいことだと思います。ただ、やっぱり事業間の対比、やはり一つ一つの事業を評価するとその時々によって評価の視点が変わったりすることがありますので、こういう評価をしながら、最終的に事業間で比較をして、個々の事業の評価が他の事業に比べて適正かどうかといったところもチェックする必要があるのかなという感じがします。

- ・事務局

1点補足です。今ご意見をいただいた内容と関連しますが、別のシートがございます。こちらが先ほどの評価点を比べるためのシートでして、事務事業内の業務をここで一覧に並べていただいて、ここで点数での優先順位といたしますか、そういったものを見比べるようなことも考えております。ただ、今ご意見をいただいた事務事業単位での比較ではなく、事務事業内の業務の比較になっております。さらに上の施策における比較というシートではございませんが、事務事業内の比較ということでこういったシートを作っております。説明が漏れておりましたので、追加で説明させていただきます。

- ・委員

今日ちょうど午前中に小牧市の行政改革推進懇談会に出席してきまして、小牧市の山下市長が小牧市は不交付団体であるが、年々厳しさが増ってきているというようなお話をされてました。さらには自治体の業務がすごく増えてしまっているということもおっしゃっていたのが印象的だったのですが、安城市のこの事業数がどういう傾向にあるのかということを知りたいと思います。先ほどの5ページの人不足のところも事業数と職員数がどうなっていて、これからどうなっていくのかといったことも見られたらいいのかなと感じました。

- ・事務局

事務事業数につきましては急激な増加というのはございませんが、ただ業務的には増えている感じでございます。前回783事業ございましたが前回561事業に減っておりまして、現在の事務事業数が令和4年度は488事業で、大きな事業の括りとしては減少傾向にはあります。ただ、さらにそこにぶら下がる業務としては増えているような感じもいたしますので、事務事業数と業務の量という

のは、ちょっと合っていない部分もあるかと思っております。

- ・ 委員

一つの事務事業で業務として増えるというのは、具体的にどういうことなのでしょう。

- ・ 事務局

私の部署でも「行政評価」、「行政改革」ということで二つの事業があります。その中にぶら下がる事業というのが増えているということです。事務事業という大きな単位では増えてはいないのですが、そこにぶら下がるといいますか、その事務事業にある業務が増えているというイメージでございます。そのあたりも踏まえて、その業務量もあわせて見ていく必要があると感じました。

- ・ 委員

先ほどの評価シートのところで、事務事業に関しては、法律的な義務付けがあるようなものについても全て対象となるという理解でよろしいでしょうか。

- ・ 事務局

法的な位置付けのあるものにつきましても、必要性はあるという判断の中で、効率性とか公平性についてチェックをしていく予定をしております。

- ・ 委員

そうすると、先ほどスライド資料にあったと思いますが、業務を縮小するとかそういった記載が検討されているような項目は少し違うのかなと思います。

- ・ 事務局

こちらが経常的・義務的シートでございまして、必要性の項目を除いて、公平性と効率性を主とした評価シートを作っているところでございます。

法律的な義務付けがあるようなものに関しては、必ずやっていかなければいけないけれど、市町村の自由度というか、そこに市町村の色を加えるところもたくさんあります。ですので、ご検討いただいているところだと思いますが、何かそれがうまく反映できるように、おそらく現実に業務を入れないと私達もアイデアも出てこないとは思いますが、引き続きやっていただければなというふうに思います。

- ・委員

事務事業総点検の目的について質問させていただきます。第9次総合計画についてですが、先週、400のパブリックコメントを受けて市長に答申しました。内容は本当にいい内容がありまして、従来の高齢者の見守りから子供たちの方に大きく計画が変わっております。実施計画も付いておりますけど、総合計画と実施計画を見ますと、予算化されていないものがたくさんございまして、私どもとしても8年間の総合計画でいつやるのかというものがいろいろあります。この総点検について1年間のスケジュールは決まっていると思いますが、全体の事業のスケジュールというのは、ある程度作っておられるのでしょうか。

それと、2番目に業務の見直しということですが、今年度市長が変わったということによっていろんな事業計画が変わります。それによって職員の残業時間とかが増えて、通常業務をやりながらいろんな計画をやっていくために相当の時間を費やされたと思いますが、今後直ぐに事業計画が動いていくとは思いません。総合計画と、今年度の実施計画を見ますと相当漏れがあります。予算的な漏れものもありますし、この事業はいつやるのかというものもあります。そういうことで職員の残業時間数を管理していく必要があるのではないかということ、ぜひご提案をしていただければいいと思います。

- ・事務局

総点検をする中ですぐに見直しができなかったり、時間を要する事業につきましては、9月頃に複数年をかけて見直しをするロードマップの策定も進める予定でございます。総合計画の中でもすぐには実現しないものもございまして、そういったことも含めて、短期間での視野ではなく、中長期的な視野においても取組を見直す等を進めていきたいと思っております。

- ・会長

審議会としてやることですが、スライド資料の13ページに外部評価の箇所があります。具体的な内容は11月の前にご説明いただくとは思いますが、基本的には点検シートの評価点が低い事業や、方向性に懸案や課題のある事業ということですので、基本的な心積もりとしては、やめるお墨付きを与えるというか、後押しをするという認識でいいのでしょうか。今までやっていた外部評価というのは、基本的に、廃止が必要なものについては廃止という結論ももちろんありましたが、どうやったらうまくできるかというようなポジティブな面で皆さんに議論

していただいた面もあると思います。けれども、今回の評価については、基本的に20点以下の事業はやめて構わないのではないかというお墨付きというか、後押しをするというような認識で進めていけばいいということによろしいでしょうか。

- ・事務局

来年度の外部評価につきましては、やめるといいますか、今後見直しが必要な事業、懸案や課題がある事業について中心に行っていく想定をしております。今言われた通り、少し前向きではない事業になるのかもしれませんが、見直しについてご検討いただくような予定をしております。

- ・会長

他に何かございますでしょうか。それでは、議題1についてはこれで終了ということにさせていただきます。

(2) 外部評価報告書について

- ・会長

議題2 外部評価報告書について、事務局の方から説明をお願いいたします。

(事務局説明)

- ・会長

それでは、委員の皆様からご意見ご質問等がありましたらご発言をお願いいたします。特にご意見等ないようですので、原案どおり承認させていただきたいと思っております。

以上で、本日の議題は終了となります。ご協力ありがとうございました。

(外部評価報告書の提出)